



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 内閣府認証 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議(日越友好連)
NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町333番地 辻ビル405 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
c/o. IFCC.#405, TsujiBLD, 333, Yamabuki-cho, shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL (81)3-3268-4387/FAX (81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp



会費/正会員:(個人)5,000円 (団体)50,000円 口座名/日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱東京UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキュー)店(当座)0188872

～JVPF 第九回総会開かる～

最後の秘境ハザン省で少数民族学生奨学金を開始

去る5月28日、東京において JVPF 第九回総会が開催されました。JVPF 活動開始から15年目となった2015年度はベトナムの南部解放・統一40周年、ベトナム社会主義共和国建国70年の年でもありましたので JVPF にとっても、4月30日の記念日への訪問団派遣など重要な1年でした。

各地でも埼玉 JVPF の中部クアンナムでの『仁愛の家』寄贈と訪問、福岡 JVPF の「長崎原爆70周年写真展」(ハノイ大学で)開催、鹿児島 JVPF の「鹿児島・ベトナム平和と文化交流の集い」、広島 HVPF の「ベトナム解放40周年記念」訪問団及び「被爆70年“ピース”チャリティーコンサート/ベトナムと日本 ～心で奏でる伝統楽器～」、そして締めくくりとして JVPF 訪問団がラオドン省・ハザン省・タイビン省を訪問し奨学金支援、枯れ葉剤被害者調査・慰問をおこなってきました。

●ハザン省訪問は、少数民族学生の状況調査が大きな目的でした。この調査を受け第九回総会ではハザン省の少数民族出身中学校での奨学金支援の具体化を図ることを決めました。(詳細は4ページ)

●2007年に開校した村山記念 JVPF 日本語学校が



第九回総会

今年の9月に10年目を迎えることになりました。幾多の存亡の困難がありましたが、立

ち上げ時の全労済様の基金、会員の皆様の育英奨学



北部ハザン省のヴィスエン郡少数民族出身中学校で。授業風景。(2015・12・23/JVPF 訪問団)

金、協和化学工業株式会社様の援助金によって現在に至りました。10周年を記念し現地でお祝いの行事を行うことも決定しました。

●枯れ葉剤爆弾被害者支援とそのためのベトナムアンサンブルチャリティーコンサートは JVPF の設立理念と活動の柱として継続していくことを確認しました。

●また、JVPF の活動の安定化を図る為、会員拡大を進めることも確認しました。

2019年の JVPF20 周年に向けて、日越の相互交流を一層すすめていきたいと思ひます。

2016年6月

理事長 大西繁治

本号の内容

- 第九回総会報告
- ハザン省奨学金支援の呼掛け
- 各地の活動/広島 HVPF の活動に学ぶ/200万人餓死事件の跡を視察
- 短信

第九回総会報告

5月28日、東京で第17回理事会に引き続き、第九回総会を開催しました。開会冒頭に村山会長は「東アジア平和フォーラムが開催され、平和と繁栄のために日本への期待が大きい。習近平主席は『覇権は求めない。アジアの繁栄のために努力する』と述べた。日本と中国、日本とベトナムの関係維持が重要です」挨拶されました。議案の提案では「9月末までに最低1名以上の会員拡大」を各地・県で努力することが強調されました。

総会討論では、「ベトナム訪問時にランドセルを持って行って欲しい」「会員拡大はコンサートに関わった人への呼掛けを」「ネットの活用、JVPF紹介リーフの作成を」や枯葉剤被害者への「仁愛の家寄贈」などの活動が報告されました。総会終了後、恒例の「懇親会」がファム・クアン・フー等書記官を迎えて、和やかに行われました。

2015年度事業報告

【組織活動】一要旨

- 1、2015年度はJVPF活動開始15年目（結成1999年）となりました。同時にベトナムの南部解放・統一40周年、ベトナム社会主義共和国建国70年の年でもありましたので2015年4月JVPF記念訪問団を派遣してきました。
- 2、日本の終戦70周年は同時にベトナムはじめアジア諸国の解放70周年でもあり、ベトナムは建国70周年として祝いの年でした。
ベトナム共和国建国70周年記念宴会、グエン・フー・チョン・ベトナム共産党中央執行委員会書記長の訪日に合わせた「アジアの平和と繁栄を目指して～越日関係の発展ビジョン」講演会、越日友好協会ビン副会長が訪日、ハノイ市友好委員会代表が訪日など参画してきました。
- 3、同時に、各地で解放40周年に関連し多彩な活動も行われてきました。
埼玉JVPFの中部クアンナムを訪問、福岡JVPFの「長崎原爆70周年写真展」（ハノイ大学）、鹿児島JVPFの「鹿児島・ベトナム平和と文化交流の集い」、広島HVPFの「ベトナム解放40周年記念」訪問団及び「被爆70年“ピース”チャリティーコンサート／ベトナムと日本 ～心で奏でる伝統楽器～」などが行われました。
- 4、組織の強化発展のための活動について
会員拡大の確認——略
- 5、懸案でした村山記念日本語学校の新規事業「ハノイ・留学センター」は準備段階ながら活動を開始。

【事業】

1、教育支援事業（1）——少数民族出身高校生及び 貧困学生奨学金支援

現在、広島ベトナム平和友好協会がクアンチ省、鹿児島JVPFがラムドン省で継続中、社団法人・時遊人がニンビン省で行ってきていた支援事業は任務を終え終了。

新規に調査を要請されたハザン省少数民族学生支援については昨年冬の訪問団で調査を行い、検討を約束してきており、2016年度事業として相談。

2、教育支援 事業（2） ——村山 記念JVPF 日本 語学校

2014年秋から
経常運営



挨拶を頂いたファム・クアン・フー等書記官

が赤字から脱却。これには協和化学株式会社様より頂いた寄付金が大きく寄与。

3、国際協力事業（1）—— 枯葉剤被害者支援の ための活動

遅れていました追跡記録DVD第3版が昨年9月に完成。戦争被害者が忘却され「棄民」とされないよう上映、講演などの活動を。

同時に、広島のHVPF、埼玉JVPFの活動と提携し、現地での慰問・調査活動を継続。特に埼玉JVPFの平松伴子・副会長が中心となり進めてきましたクアンナム省での『仁愛の家』（1軒＝30～40万円）寄贈の活動は20軒へ。

4、国際協力事業（2）—— 枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」

2015年12月に慰問し衣服など届ける。タイビン・リハビリ施設はJVPFの活動の柱として可能な支援を。

また、12月のタイビン訪問時に枯葉剤被害者追跡DVD第3版のタイトルにもしました「トア」と「トゥオン」を慰問。

5、国際協力事業（3）——ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

昨年は記念すべき20回目（20年目）を行う。昨年は国立ボンセン歌舞団から協力の申し出がありその選抜グループとして来日。

10月15日から、12回のチャリティーコンサート、2回の友情演奏会（小学校、保育園）、2回の慰問行事参加（フクシマ原発被害者、広島被爆70年）を行う。来場者は約3,000人、チケット購入協賛者は5000人ほど。

6、国際交流事業（1）——いけばなデモンストレーションなど文化交流

いけばな交流はここ数年開催できず。

7、国際交流事業（2）——小中学生夏季日本語研修

実現できず。

8、国際交流事業（3）——文化・スポーツ交流

実現できず。

9、その他の事業（1）——会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

活動はできず。

2016年度事業計画

【組織活動】



発展もない」という立場で日越の一層の友好活動に努めたい。

2、組織の強化発展のための活動について

- ①認定NPOへの行の件は、条件が整うよう努めたい。
 - ②組織拡大——活動の基礎である会員拡大に努める。同時に支部作り、あるいは友誼的団体との提携を。
 - ③会報（ホアビンレポート）を2回発行、会員連絡報を2回、常任理事会は3回開催を。
- 3、留学生紹介斡旋事業を村山記念日本語学校と提携し、軌道に乗るよう努力。

【事業】

1、教育支援事業（1）——少数民族出身高校生及び貧困学生奨学金支援

- ①北部ハザン省での支援事業の具体化。

2、教育支援事業（2）——村山記念JVPF日本語学校

- ①日本への留学生増を受けた「留学センター」（仮称）の活動について具体化。
- ②現在、学校は通常の日本語教育事業の他、年少者への日本語ボランティア、JAICA委託事業、高校での出前日本語講座など岐にわたる活動をより促進。

- ③2007年9月開校の日本語学校は今年の9月から10年目に。祝賀行事を2016年4月にホーチミン市で開催予定。

3、国際協力事業（1）——枯葉剤被害者支援の活動

- ①戦争被害者への支援活動を継続。
- ②特に、ベトナムの貧困地域である山岳地帯や少数民族生活地域での支援を工夫。

4、国際協力事業（2）——枯葉剤爆弾被害者への「自立支援プログラム」

- ①自立の気持ち強い障害者を「一人でも」支えていくことを検討。

- ②ベトナム側の被害者への援助の全体像についての政策や施設の状況について調査。

- ③このため枯葉剤被害追跡記録DVDをキャンペーンとして活用。

5、国際協力事業（3）——ベトナム民族アンサンブルチャリティーコンサート

- ①プログラムの工夫や協力の申し出、ベトナム側での関心の高まりなどあるので、今年度も開催。
- ②一方、年々開催が困難になってきている状況もあるので再考が必要。

6、国際交流事業（1）——文化、スポーツなどの分野での交流

- ①諸テーマでの交流の可能性を検討。

7、国際交流事業（2）——小中学生夏季日本語研修

- ①村山学校日本語修学学生に限らず、今後とも可能性を検討。

8、その他の事業（1）——会員及び企業の事業及び事業展開への「情報提供の事業」

- ①各分野での相互交流、調査活動などに寄与。

2016年度役員

総会では7人の理事の退任と5人に新任理事の承認がなされ、今期の理事は38人、監査1人となる。理事の互選による主な職務は以下のとおり。

《主な職務》

会長：村山富市

副会長：佐藤晴男、川渕映子、松浦正美、赤木達男、山下茂

理事長：大西繁治

副理事長：鎌田篤則、金光秀人

※当会の代表は大西繁治理事

監査：田中秀樹

《退任された理事》

今井貴、岡田嘉久、富岡勉、富山栄子、星野光敏、榊野金治郎、岡田新一

《新任された理事》

渡辺美里、山口菊子、石毛茂、齋藤健市、梶川美佐男

2015年度活動計算書

I 経常収益	3,058,618
II 経常費用	3,063,046
当期経常増減額	-4,428
前期繰越正味財産額	-123,809
次期繰越正味財産額	-128,237

2016年度活動予算書

I 経常利益	2,945,000
II 経常費用	2,780,000
当期経常増減額	165,000
前期繰越正味増減額	-128,237
次期繰越正味増減	36,763

2015年度貸借表

I 資産の部	
1. 流動資産	307,692
現金預金	25,192
未収金	282,500
2. 固定資産	0
II 負債の部	
1. 流動負債	435,929
2. 固定負債	0
III 正味財産の部	
前期繰越正味財産額	-123,809
当期経常増減額	-4,428
正味財産額	-128,237

ハザン省少数民族学生JVPF奨学金支援開始へ

ハザン省・少数民族中学校レポート

2005年9月から北部ハタイ省で開始されました少数民族



出身学生奨学金支援活動はJVPFの教育支援協力活動として、フート省、ニンビン省、クアンチ省、ラオドン省等へと広がり現在に至っています。

今回、ベトナム友好委員会連合の提案を受け、北部ハザン省で少数民族出身中学生を調査し奨学金支援活動を開始することになりました。

第一期10人を4年継続、第四期まで延べ人数40人、足掛け8年のプロジェクトとなります。

ハザン省はハノイから310km、ベトナムの遺された秘境と言われ、少数民族中心の省で、ベトナム全土で9割を占めるキン族（ベト族）が少数で22の民族から構成される省です。

対象となるVi Xuyen郡少数民族中学校（4年制）では全校250人中34%が貧困家庭に属しています。ベトナム政府による貧困基準は1人当たり月平均収入400,000VND（≒約2000円（ベトナム、農村部））以下で、2015年段階では農村部の17.4%（ベトナム全土）が該当しますが、ハザン省の対象中学校はこれより大幅な貧困率となっています。

Ha Giang 省 Vi Xuyen 郡の少数民族学生の情報

作成日：2016年3月

1、学校概要

①学生数と学生民族構成

——図表参照——

Khối lớp クラス	Toàn trường 全校		BéY ボーイ	Đào ザオ	Giấy ザイ	Hmông モン	Hoa ホア	Kinh キン	Nùng ヌン	Pu Páo プペオ	Tày タイ
	TS 合計	Nữ 女性	SL 人数	SL 人数	SL 人数	SL 人数	SL 人数	SL 人数	SL 人数	SL 人数	SL 人数
Khối 6 6年生	66	42	1	24	3	8	2	1	3	1	23
Khối 7 7年生	64	38	0	26	1	9	2	0	5	1	20
Khối 8 8年生	61	42	2	28	0	12	0	0	4	0	15
Khối 9 9年生	59	42	0	26	1	13	0	1	8	0	10
Tổng cộng 合計	250	164	3	104	5	42	4	2	20	2	68

※キン族（ベト族）の子らもハザン省では少数で、少数民族中学校で学んでいる。

②先生及び職員の数

合計：30人

- ・教育委員会：3人
- ・少年少女指導責任者：1人
- ・教師：17人
- ・職員：9人（経理1人、庶務1人、経理補佐1人、設備管理1人、保健1人、警備1人、調理3人）

2、両親

①職業の構成

——94%農業、6%は行政公務員

②収入の平均および貧困層のパーセント

——平均収入、1ヶ月当たり1,083,000VND（≒5,415

円）×家族労働人数

※両親労働の場合

2,166,000VND

——250人中85人（34%）が貧困家庭。うち1人は孤児、12人が片親の家庭。

※ベトナム政府による貧困

——基本経費：920,000VND（≒4,600円）（1人当たり、月額、1日3食）補償。最低賃金80%に相当。

——他の経費：1年間に生活や勉強のために

1,500,000VND 支給（1人当たり）制服1着、防寒服1着、布団1組、文房具、生活品など

——特別な経費：学校行事や優秀学生へのボーナスなど

②政府の学費 援助は学生1人当たりいくらか

——学費は全額無料

5、奨学金支援についての希望は何か

①成績の良い学生を

対象。彼らはほとんど貧困家庭出身。

②奨学金希望額は1ヶ月

300,000VND（≒1500円）から500,000VND（≒2500円）。

③1年次に奨学金対象者を決めて、4年間継続を希望する。



寄宿舎の部屋は8人部屋

3、中学校へ入学している学生について

①同年齢の何パーセントが寄宿学校にきているか。

——Vi Xuyen 郡の同年齢の94%学校にきている。

②高校に行くのは何パーセントか

——高校寄宿学校へ進学しているのは95%

4、学校での経費について

①学生1人当たりの学校の費用（生活費、教材費、他）はいくらか

活動紹介—2009年6月設立以来、多彩な活動が続けてきている広島ベトナム平和友好協会(HVPF)は、設立10周年に向けた活動のバージョンアップを図っています。今回、去る6月19日開催されたHVPF第8回総会議案から活動の一端をご紹介します、その経験を共有したいと思います。

【2015年度活動報告から】要旨

東広島市に事務局を置く広島ベトナム平和友好協会(JVPF 副会長でもある赤木達男さんが専務理事)は2015年を「歴史的な節目の年」として、通年事業に加え、「戦後70年」を迎えた日本、「解放40周年」を迎えたベトナム、ともに「歴史的な節目の年」に当たり「3つの記念事業」(“ベトナムがく”しみん講座、被爆70年“ピース”チャリティーコンサート、「ベトナム解放40周年」記念訪問団)に取り組む。—この一年間、「広島アセアン協会」との相互加盟や「ひろしま国際交流サミット」「東広島国際化推進協議会」の助成をいただき取り組んだ「被爆70年“ピース”チャリティーコンサート」を通して、東広島ユネスコ協会をはじめ多くの国際交流団体や市民活動団体との連帯・連携を深めた。—「国際学術研究都市」を標榜する東広島市の外国籍市民数が、昨2015年10月、初めて5千人の大会に乗った。とくにベトナム国籍を持つ市民が、2005年の71名から464名へと大幅(6.5倍)に増加したことなど、一層の国際交流活動推進に向けた「節目」の年になった。

■2015年度の3つの「記念事業」

① “ベトナムがく”しみん講座

「戦後70周年」「被爆70周年」を迎える日本、「ベトナム建国70周年」(9月2日)、「ベトナム解放40周年」(4月30日)を迎えるベトナムと、共に「歴史的な節目の年」に当たり、ベトナムとの相互理解を深め市民レベルでの交流を推進することを目的に、「ベトナムがく」《ベトナムについて楽しく学び、友好の花を萼(がくす)》を、智を求めて集い、お互いを支え合い、国際人を志す「しみん講座」として、下記の講座を開催。

しみん講座で、岩本功さん

「ベトナムがく」しみん講座は2016年度も《日本とベトナムの交流～過去・現在・未来》《ベトナムってどんな国?》《ベトナムの歴史と文化の夕べ》《ベトナム料理(ベトナム味)》《日本・ベトナムの役割》をテーマで計画されている。第3講座(ベトナムの歴史と文化の夕べ)には、枯葉剤被害者グエン・ドクさんの招聘を計画。

2015年度実施された「“ベトナムがく”しみん講座」

講座	開催日時	内容	講師	受講生
第1	7月19日(日)	・記録映画の「花はどこへいった」 ・講演「今なお続く枯れ葉剤被害」	岩本功・国際医療協力山口の会会長、 周南記念病院名誉院長	37人
第2	9月6日(日)	・ベトナムってどんな国(歴史&日本との関わり) ・特別報告「地震後のネパール～現状・課題・支援」	・小倉亜沙美・広島大学平和科学研究 センター助教 ・ルニ・ピア(ネパール人)広島大学 国際協力研究科・準教授	28人
第3	11月1日(日)	被爆70年“ピース”チャリティーコンサート (東広島ユネスコ協会などと共催)	ベトナム民族アンサンブル、ハイズ、和楽器演奏 家(光原大寿、中島裕康、佐藤圭将)	607人
第4	12月20日(日)	・ベトナム料理《ベトナム味》講座	張富裕子さん(アブサラス店長)	24人



「テトを祝う会」の様相

②「被爆70年“ピース”チャリティーコンサート」～ベトナムと日本～心で奏でる伝統楽器「被爆70周年」「戦後70周年」「平和・非核兵器都市東広島市宣言」を発して30年という「歴史的な節目の年」に当たり平和への願いを結び合うコンサートに607人が集う。

③「ベトナム解放40周年記念訪問団」派遣(第10次平和友好訪問団)

2009年から始まった訪問団は、2015年10月に第10次訪問団を実施。クアンチ省少数民族寄宿高等学校「奨学金授与式」、他、少数民族村への「医療器具支援」活動として東広島地区医師会の協力で資機材の寄贈も行う。

■教育支援プログラム「高校生奨学金10USドル」支援活動 ～累積700万円相当～

2009年の「第1期奨学生」から本年度入学の「第7期奨学生」まで、延べ140名に、総額5万7600ドル(700万円余)の奨学支援を行う。第1期～第4期までの80名が優秀な成績で卒業し、大学30名、専門学校50名と全員が進学。今後、古書を活用した「奨学支援基金積立」を準備。

■第8回「テトを祝う会」～過去最高の195人が集う

■その他の交流活動 ～ひと・まち発見講座～

2013年から市教委に依頼されている「東広島市生涯学習システムモデルプログラム「ひと・まち発見講座」を実施。

世界の食文化を通じて異文化を体験する第1講座《“つくってヴィ ヴェ” “味わってンゴン” ベトナム味講座》《HVPF活動紹介と気軽に国際交流について考える講座》《ベトナム留学生や国際大学生の企画による「エンジョイ・カルチャー・タイム」など多彩な企画に、市民・学生参加者が毎年増えている。

■会員と組織

①現在、個人会員60人、法人会員12を数える。役員にも、名誉顧問：藏田義雄(東広島市長)、越智光夫(広島大学学長)、焼廣益秀(広島国際大学学長)、野村正人(近畿大学工学部工学部長)、木原和由(東広島商工会議所会頭)、山崎数正(東

広島地区医師会会長)、会長:河内昌彦(広島県リハビリテーション協会会長・ときわ台ホーム施設長)が就かれ、理事にも企業、行政、教育、医療、農業など幅広い分野から就任されている。

②「ひろしま国際交流サミット」、「東広島市国

際化推進協議会」に参加。「ひろしま国際交流サミット」から30万円の助成交付を、「東広島市国際化推進協議会」からも5万円の助成交付を受ける。(文責:JVPF)

報告 JVPFの活動の仲間である「ふえみんベトナムプロジェクト」の皆さんは、「2016年ベトナムツアー」でタイビンを訪問され、200万人餓死事件跡を視察されました。

ベトナム200万人餓死を考える

渡辺美里

私にとって、今回のツアーで一番苦勞し、一番心配したのは、「200万人餓死事件」の現場を訪ねる企画です。この企画をベトナムプロジェクトに出したら、ふえみん70周年、戦後70周年の今しかできない企画、ということであっさり了承されました。さて、どこへ、どうやって行くか?

毎年「枯葉剤被害者支援コンサート」のチケットの販売などで協力しているJVPF(日本ベトナム平和友好連絡会議)が設立したリハビリセンターがタイビン省にあるので、合わせて訪問することにして、JVPFに相談を持ちかけました。JVPFは越日友好協会へ、そこからタイビン省友好委員会に依頼してくれ、このツアーが実現しました。

JVPFの元会員である黒川吉衛さんをご紹介いただいて、さっそく連絡を取り著書「ベトナム一国家



報告書を見せて話すグエン・タン先生

とは、愛国とは」をお送りいただきました。元日本軍兵士だった黒川吉衛さんは、道端に倒れた数多くの死者を目撃し、後にそれが日本軍

の収奪による餓死者だったことを知りました。罪責からベトナムを訪れ、幼稚園を支援し、平和のために活動し、93歳になる今も学校で証言を続けておられます。黒川さんの人柄と活動には勇気をいただきました。

さて当日、タイビン省中心部でタイビン省友好委員会の方との話し合いを行い、昼食の席で「祖父のきょうだい7人のうち、5人が餓死しました」「家族のうち13人が餓死しました」ベトナムタイビン省友好委員会会長と副会長の言葉です。直接語られる当事者の言葉は、胸に迫りました。

タイビン省博物館には、ヴォー・アン・ニン氏撮影の、正視するのが辛い当時の写真が数多く残されています。これは、早乙女勝元さんの「ベトナム200万人餓死の記録」に載っている写真でした。早乙女さんが訪問した時には、「まだ何も整備されていない」と書かれていましたが、今は立派な博物館になっています。

次に餓死者の多かったタイビン省タイロン村を訪問しました。この村では村民の約3分の2にあたる3968人が餓死した

と記録されているそうです。村の一集落であるルオンフーでは280家族1379人中594人が餓死したと、グエン・タン先生がベトナム語の本を示しながら報告してくれました。タン先生は1992年から日越共同の調査に参加した当事者でした。餓死の原因としては、洪水などの天候不順があげられるが、日本への供出用と軍の備蓄用に強制的に廉価に買い取られたことだ、とタン先生は話しました。

見渡す限りの広大な水田が広がるこの地域で、それだけ多数の餓死者が出たのは、収奪の厳しさが推し量れます。やはり現地を訪れることで、リアルに想像できます。「戦時中に『外米』を食べた。その頃はベトナムの状況を知らなかった。申し訳なかった」と参加者の発言があり、ベトナムからの留学生が「子どもの頃、おなかがすいた、と泣くと、45年の餓死のことを考えなさい、と叱られた」と話していたのを思い浮かべました。

2016/7/7 記

掲示板

- ◆埼玉 JVPF は8月1日から、ハノイ、クアンナム訪問団派遣
- ◆鹿児島 JVPF は、ラオドン省の少数民族出身高校生奨学金の2016年度サポーターを募集中。
【問合せ】FAX:099-263-6732
Eメール:snosaki@io.ocn.ne.jp
- ◆広島のHVPFは10月21日に、ツーズ一病院のドクさんを招聘し「枯葉剤被害者として生まれ、父親として生きる」をテーマに講演を計画。同時に、10月24日から「第11次平和友好訪問団」を予定。
- ◆2016秋 JVPF 友好訪問団は、少数民族学生奨学金支援(ラオドン省、ハザン省)と枯葉剤爆弾被害者調査慰問(ハザン省)で11月下旬を予定。
- ◆村山日本語学校2016夏期研修で22人来日。7月12日から。
- ◆村山記念JVPF日本語学校開設10周年記念行事を2017年4月に予定。詳細は9月に案内。

2016 ベトナムアンサンブル公演日程調整表(7月1日)

2016年度は21年目のチャリティコンサートを迎えます。未だ、開催予定数に至りません。開催へのご協力をお願い致します。

10月15日(土)	宮崎・小林市/文化会館ホール
10月16日(日)	(未定)
10月17日(月)	鹿児島・姶良市/加音ホール
10月18日(火)	(未定)
10月19日(水)	福岡/西南学院大学ホール
10月20日(木)	(未定)
10月21日(金)	佐賀・小城市/生涯学習センター多目的文化ホール
10月22日(土)	(未定)
10月23日(日)	(未定)
10月24日(月)	徳島・阿南市/文化会館ホール
10月25日(火)	香川・三木町文化交流プラザホール
10月26日(水)	(未定)
10月27日(木)	移動日
10月28日(金)	福島・いわき市/いわき市文化センターホール
10月29日(土)	埼玉県内 or 関東ブロック
10月30日(日)	(未定)
10月31日(月)	西東京市/こもれびホール